

「児童生徒の豊かな学びをはぐくむ授業の創造」

1 研究の趣旨

児童生徒が確かな学力を身に付け、自らの学びを実感できる、豊かな学びをはぐくむ授業の創造に関する研究を行い、各学校での授業の改善・充実に資する。

2 研究主題

児童生徒の豊かな学びをはぐくむ授業の創造

3 研究を行う教科(校種)

国語(小学校, 中学校, 高等学校), 社会・地理歴史・公民(小学校, 中学校, 高等学校)
理科(小学校, 中学校, 高等学校), 図画工作・美術(小学校, 中学校), 家庭及び技術
・家庭(小学校, 中学校, 高等学校)

4 研究期間

平成19, 20年度の2年間

5 研究の方法及び研究経過

- (1) 各教科ごとに研究協力員を委嘱して、2年間で8回の研究協議会を実施した。
- (2) 研究主題「児童生徒の豊かな学びをはぐくむ授業の創造」を設定するとともに、各教科ごとに授業研究を通して研究を進めた。
- (3) 平成19年度は、研究主題について理論研究を行うとともに「児童生徒の豊かな学びをはぐくむ授業の創造」に関する教師・児童生徒の意識、授業の実態について調査研究を行った。調査は県内小学校50校, 中学校50校, 高等学校50校の教師及び児童生徒を対象とした。また、研究主題に基づき、校種(小学校, 中学校, 高等学校)ごとに、研究協力員の所属校で、平成19年9月から11月にかけて授業研究を実施した。

6 研究内容

(1) 研究主題に関する基本的な考え方

平成17, 18年度の教科に関する研究の中で、「豊かな学び」とは、習得型の教育と探究型の教育のバランスのとれた授業の中で、児童生徒自身が、自らの内に問いをもち、「知識・技能の習得」と「自ら学び自ら考える力」を身に付け、その結果、「意欲、感動、充実感、自信」などの内面的なものを、自らの学びとして実感できる学びであると考えられるととらえてきた。

また、「確かな学力」は、教師自身がより「豊かな発想」をもち、教師としての哲学をもって、児童生徒に働きかけていく授業の実践の中で、はぐくまれていくものと考えた。それらのことを踏まえ、「豊かな学びをはぐくむ」ことを、学ぶ側である児童生徒にとっての「豊かな学び」と、教える側である教師の「豊かな発想」をもった働きかけとが融合された「分かる授業」「楽しい授業」の中で、児童生徒が主体的に学びの喜びや楽しさを味わい、学びの意義を実感しながら「確かな学力」を身に付けていくことととらえ、授業

実践を重ねてきた。

2年間の研究を進めた結果、児童生徒の興味・関心を高める教材の工夫や、学びを実感する手立てなどについての有効性を確認することができたと考えている。一方で、研究の過程で、「豊かな学びをはぐくむ」ためには、「確かな学力」の育成をめざした授業の構築が重要であることを改めて認識するに至った。そこで、児童生徒が主体的に学びの喜びや楽しさを味わい、学びの意義を実感しながら「確かな学力」を身に付けていくことを「わかる」こととおさえ、豊かな学びをはぐくむための「分かる授業」「楽しい授業」を、教師の豊かな発想と児童生徒が「わかる」という二つの視点から「わかる授業」としてとらえ直し、追究し、創造していくことを課題とすることにした。

高久清吉^{注1)}氏は、「わかる授業」の意味を、二つの意味に分けてとらえている。一つは、ついていけない子どもをなくそうとする授業、もう一つは、生きた学力の習得と直結するような質の高い本物の分かり方をする授業と定義している。この二つの意味は、二者択一で実践するものではなく、二つの意味のバランスをとった授業が「わかる授業」であると考えることができる。高久氏の言う「わかる授業」の二つの意味は、中央教育審議会答申（平成17年10月26日）「新しい時代の義務教育を創造する」に示された、基礎的な知識・技能の育成と、自ら学び自ら考える力の育成を総合的に行うことに置き換えてとらえることが可能であると考えられる。

また、高久氏は「わかる授業」を追究していく上で期待される教師の「哲学的な考え方」の一つとして「何か」と「いかに」の二つの問いが結び合うことが必要であると述べている。「何か」とは、問題や事柄の本質的な意味をはっきりさせようとする問いであり、「いかに」は実践の在り方や進め方、つまり実践の方法を問題とする問いであると述べている。

無藤隆^{注2)}氏は、論説の中で、学習の見通しを過去・現在・これからと作るようにすることを「学びのマップづくり」と呼び、これまでの学習成果とこれから学ぶ点を明確化することで評価を提供することや、それらの評価情報を基に、これから自分はどうのように学んでいくのかの計画を立てる「学びのプランづくり」につなげていくことの重要性を述べている。

さらに、学びのプランにおいては、何を目指すかという目標と、それをどのように学ぶかという学習の方略の面とがあり、学習の方略については、どのようなやり方が可能かというレポートの確認と各々の得意な点の理解が求められると述べている。

このことから、児童生徒の学習状況の見極めと、そこでの教師の主要な手立てについても振り返ることが、授業を創造していくうえで重要であると改めて確認することができる。またこのことは、高久氏の述べる、「何か」という問題や事柄の本質的な意味をはっきりさせようとする問いや、「いかに」という実践の方法を問題とする問いを、具体的な形にしたものであるととらえることができる。

これらのことを踏まえると、児童生徒にとっての「わかる授業」を創造するためには、問題や事柄の本質的な意味をはっきりさせ、実践の方法を教師自らが自問しながら創造していくという姿勢が、根底になくはならないことが分かる。その上で、基礎的な知識・技能の育成と、自ら学び自ら考える力の育成を総合的に実践していくことが、「児童生徒の豊かな学びをはぐくむための授業の創造」につながるものと考え、本主題を設定した。

注1) 高久 清吉 「教育実践学」教師の力量形成の道 教育出版 1990年

注2) 無藤 隆 (白梅大学・短期大学学長) 論説「個に応じた指導の充実と絶対評価」 2003年

主な参考文献

「『学び』を問いつづけて - 授業改革の原点 - 」佐伯 胖 小学館 2003年

「学ぶ意欲とスキルを育てる いま求められている学力向上策」市川 伸一 小学館 2004年

(2) 研究主題に関する実態調査

「児童生徒の豊かな学びをはぐくむ授業の創造」に関する児童生徒・教師の意識，授業の実態を探るために実態調査を実施した。

ア 調査期間

平成19年9月18日(火)から平成19年9月28日(金)

イ 調査対象

(ア) 教師

県内の小学校50校，中学校50校，高等学校50校を無作為抽出し，各学校7人を対象とした。

(イ) 児童生徒

県内の小学校50校，中学校50校，高等学校50校を対象として行った。小学校については第5学年児童を，中学校については第2学年生徒を，高等学校については第2学年生徒を対象とし，それぞれ1学級で実施した。なお，調査依頼校は，教師の実態調査校と同一とした。

ウ 調査結果及び分析と考察

(ア) 調査人数及び回収率

ふだんの学習指導において，「児童生徒の豊かな学びをはぐくむ授業の創造」についての教師・児童生徒の意識や，学習への取組の様子を把握するための調査対象及び回収率は，表1に示す通りである。

表1 調査対象及び回収率(教師，児童生徒)

校種	依頼数(校)	回答数(校)	回収率(%)	教師調査人数(人)	児童生徒調査人数(人)
小学校	50	49	98	342	1387
中学校	50	50	100	349	1628
高等学校	50	50	100	350	1703
合計	150	149	99.3	1041	4718

(イ) 調査結果の分析・考察

表 2 は、教師の授業への取組の意識と、児童生徒の授業に臨む意識の調査結果である。

表 2 教師，児童生徒への質問事項及び、回答結果

次の質問にあてはまる回答を下に示す尺度の中から該当するものを一つ選んでください。						
【教師】						
A している B どちらかといえばしている C どちらかといえばしていない D していない						
(%)						
質問	校種	A	B	C	D	
あなたは、「何を，どのように教えればよいか」ということを意識して授業をしていますか。	小	77.9	21.8	0.3	0.0	
	中	81.0	19.0	0.0	0.0	
	高	83.1	16.3	0.6	0.0	
あなたは、「児童生徒が学ぶ喜びや楽しさを感じる」ことを意識して授業をしていますか。	小	60.0	39.4	0.6	0.0	
	中	58.8	39.2	2.0	0.0	
	高	56.0	39.1	4.9	0.0	
あなたは、「児童生徒の学んだことが，その後の学習や実社会で役に立つようになる」ことを意識して授業をしていますか。	小	47.5	47.6	4.9	0.0	
	中	50.7	46.4	2.3	0.6	
	高	59.7	35.1	4.9	0.3	
【児童生徒】						
A はい B どちらかといえばはい C どちらかといえばいいえ D いいえ						
(%)						
質問	校種	A	B	C	D	
あなたは，何を学ばよいかということ意識して授業を受けていますか。	小	34.7	56.6	7.4	1.3	
	中	20.4	58.9	16.7	4.0	
	高	14.8	48.9	24.0	12.3	
あなたは，授業の中で，学習することが楽しいと感じることがありますか。	小	50.8	35.8	10.8	2.6	
	中	22.3	41.7	27.1	8.9	
	高	11.6	32.9	35.1	20.4	
学校で学んだことは，その後の学習やあなたの生活，将来の仕事に役立つと思いますか。	小	62.6	30.9	4.7	1.8	
	中	33.2	47.0	14.2	5.6	
	高	22.0	45.8	22.4	9.8	

【分析】

<全校種>

- ・「何を，どのように教えればよいか」については，8割前後の教師が意識している。
- ・約6割の教師が，児童生徒が学ぶ喜びや楽しさを感じることを意識して授業をしている。
- ・教師が「何を，どのように教えればよいか」を踏まえて授業をしているのに対し，児童生徒は受け身で授業に取り組んでいる。

<小学校>

- ・児童が「学習することが楽しいと感じる」ことを意識した教師の取組が，ほぼ児童の学習に反映されている。

<中学校，高等学校>

- ・教師の意識と生徒の感じ方に隔りがある。

表3は、学習指導への取組に関する調査結果（教師）である。

表3 学習指導への取組に関する質問事項及び、回答結果（教師）

児童生徒に、学習内容がわかるようにするために、ふだんどのような取組をしていますか。下に示す尺度の中から該当するものを一つ選んでください。

A している B どちらかといえばしている C どちらかといえばしていない D していない

(%)

質 問	校種	A	B	C	D
児童生徒の興味・関心を高める教材・教具の開発	小	25.4	66.5	8.1	0.0
	中	37.4	53.2	9.1	0.3
	高	34.5	48.6	14.9	2.0
基礎的・基本的な内容を定着させる学習指導の重視	小	75.5	24.2	0.3	0.0
	中	64.6	35.4	0.0	0.0
	高	65.8	33.1	1.1	0.0
指導計画の見直しと工夫改善	小	12.8	69.6	17.6	0.0
	中	20.6	62.6	15.6	1.2
	高	25.1	59.7	14.3	0.9
個に応じた指導の充実	小	42.4	53.7	3.9	0.0
	中	23.3	63.2	12.6	0.9
	高	26.0	50.9	21.4	1.7
I C Tを活用した学習環境の工夫	小	10.7	40.6	45.1	3.6
	中	8.2	31.5	43.9	16.4
	高	9.7	21.9	45.8	22.6

その他	校 種	記 述 内 容	
～ 以外の 取組	小学校	・体験的学習の充実に関すること ・学習形態の工夫に関すること	・表現力を高める指導法の工夫に関すること ・家庭学習の充実に関すること
	中学校	・家庭学習の充実に関すること ・評価に関すること	・体験的学習の充実に関すること
	高等学校	・学習環境の整備に関すること ・学習支援に関すること	・指導力向上に関すること

【分析】

<全校種>

- ・基礎的・基本的な内容を定着させる学習指導を重視している。
- ・選択肢A「している」、B「どちらかといえばしている」を合わせて結果を見ると、質問項目の内容について、意識して取り組んでいる。
- ・「I C Tを活用した学習環境の工夫」は取組が少ない結果となっている。これは、教師の取組の他に、学習環境が十分でないことも要因として考えられる。

表4は、表3で示した学習指導を基に、ふだんの授業の中で取り組んでいる具体的な学習指導方法に関する調査結果（教師）である。

表4 具体的な学習指導方法に関する質問事項及び、回答結果（教師）

児童生徒に、学習内容がわかるようにするために、あなたが具体的に取り組んでいる指導方法に当てはまるものを、下に示す尺度の中から該当するものを一つ選んでください。						
A している B どちらかといえばしている C どちらかといえばしていない D していない						
(%)						
質 問	校種	A	B	C	D	
学習課題や参考資料（参考作品）等の内容の吟味や提示の工夫	小	34.9	62.1	3.0	0.0	
	中	45.6	51.5	2.9	0.0	
	高	48.0	44.9	7.1	0.0	
児童生徒が課題を追究する学習活動の工夫（自力解決場面、課題等の調べ学習場面等）	小	33.7	60.3	6.0	0.0	
	中	25.4	63.5	11.1	0.0	
	高	18.8	50.6	28.0	2.6	
体験的な学習の工夫	小	37.9	56.1	6.0	0.0	
	中	26.9	45.9	24.0	3.2	
	高	22.6	29.7	40.0	7.7	
学び合いの場面の設定や活用	小	30.4	64.2	5.4	0.0	
	中	26.5	55.6	17.3	0.6	
	高	11.4	41.4	38.6	8.6	
振り返りの場面の設定や活用	小	26.3	61.8	11.6	0.3	
	中	29.5	57.3	12.3	0.9	
	高	26.6	47.4	24.0	2.0	
ワークシート、評価カード等の学習カードの工夫	小	30.4	60.3	9.0	0.3	
	中	52.3	42.1	5.3	0.3	
	高	24.3	35.7	29.7	10.3	
学力の定着を確認する場面の設定	小	40.3	58.2	1.5	0.0	
	中	35.4	54.1	9.6	0.9	
	高	34.6	54.9	9.1	1.4	
ノート指導の工夫	小	31.9	57.7	10.1	0.3	
	中	24.6	45.3	25.7	4.4	
	高	31.4	42.3	18.6	7.7	
T T，少人数制などの活用	小	48.7	32.8	14.9	3.6	
	中	26.5	22.6	24.6	26.3	
	高	22.8	16.6	22.3	38.3	
I C Tの活用	小	9.3	46.5	40.0	4.2	
	中	8.3	33.8	40.8	17.1	
	高	9.4	21.8	44.5	24.3	

その他 ～ 以外の 取組	校 種	記 述 内 容
	小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞づくり，ディベート，短作文学習 ・補充問題や発見問題等の準備 ・授業の中での考える場面の設定 ・全教科を通して，全員に発表する場の設定 など
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストによる定着の確認と放課後の個別指導，導入時での既習事項の復習や確認 ・1時間の授業の中に発展的な考えを聞く場面の設定 ・板書構成の工夫 など
	高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュカードを利用した復習 ・パワーポイントの活用 ・多くの実験や実物を取り扱う場面を設定した生物の授業の実施 ・個別（個人レッスン）の充実（芸術科） など

【分析】

< 全校種 >

- ・振り返りの場面の設定や活用，学力の定着を確認する場面の設定，I C Tの活用の3つの質問項目では，校種間の差があまりない。

< 小学校 >

- ・児童生徒が課題を追究する学習活動の工夫，学び合いの場面の設定や活用，学力の定着を確認する場面の設定など，具体的に様々な指導方法に取り組んでいる。

< 中学校 >

- ・ワークシート，評価カード等の学習カードの工夫を重視している。

< 高等学校 >

- ・学力の定着を確認する場面，ノート指導の充実を図っている。

表5は、「わかった，できた」と感じる学習活動に関する調査結果（児童生徒）である。

表5 「わかった，できた」と感じる学習活動に関する質問事項及び，回答結果（児童生徒）

ふだんの授業の中で，どのような学習のとき「わかった，できた」と感じますか。下のAからDの中から当てはまるものを一つ選んで，を付けてください。						
A 感じる B どちらかといえば感じる C どちらかといえば感じない D 感じない						
(%)						
質 問	校種	A	B	C	D	
興味をひく教材や用具などを使って学習したとき	小	54.9	39.4	5.4	0.3	
	中	40.6	45.8	10.6	3.0	
	高	31.8	45.8	14.9	7.5	
自分の力で課題をつかみ，それを解いたり調べたりしたとき	小	44.5	41.1	12.5	1.9	
	中	38.0	44.0	14.6	3.4	
	高	34.0	41.7	17.4	6.9	
実験や観察，実習などの体験的な学習をしたとき	小	60.8	31.9	6.4	0.9	
	中	42.0	43.6	11.6	2.8	
	高	31.5	44.2	18.7	5.6	

ふだんの授業の中で、どのような学習のとき「わかった、できた」と感じますか。下のAからDの中から当てはまるものを一つ選んで を付けてください。

A 感じる B どちらかといえば感じる C どちらかといえば感じない D 感じない

(%)

質 問	校種	A	B	C	D
友達と話し合いながら学習したとき	小	51.9	36.9	8.8	2.4
	中	42.3	40.8	13.0	3.9
	高	30.8	43.9	19.3	6.0
学習内容を見直したり振り返ったりしたとき	小	28.1	51.4	16.8	3.7
	中	23.0	43.4	27.0	6.6
	高	19.3	42.7	28.7	9.3
学習カードなどを使って学習したとき	小	34.4	46.4	16.3	2.9
	中	10.1	43.7	35.7	10.5
	高	6.6	29.1	45.3	19.0
学習したことを生かして、別の問題を解いたとき	小	55.7	32.9	9.8	1.6
	中	43.1	37.8	15.1	4.0
	高	36.7	40.0	16.4	6.9
ノートに、学習したことをまとめたとき	小	40.8	42.3	13.3	3.6
	中	30.0	43.7	19.7	6.6
	高	18.5	43.3	27.8	10.4
チーム・ティーチングや少人数制の授業のときや、先生に個別に教えてもらえたとき	小	47.2	39.7	10.6	2.5
	中	32.7	41.6	19.4	6.3
	高	26.7	40.8	23.1	9.4
コンピュータなどの機器を使ったとき	小	67.8	25.4	5.8	1.0
	中	39.1	38.9	17.0	5.0
	高	19.8	38.5	28.9	12.8

【分析】

<全校種>

- ・多くの児童生徒がわかった、できたと感じるのは、次の学習のことが多い。

「興味をひく教材や用具などを使って学習したとき」、「自分の力で課題をつかみ、それを解いたり調べたりしたとき」、「実験や観察、実習などの体験的な学習をしたとき」、「友達と話し合いながら学習したとき」、「学習したことを生かして、別の問題を解いたとき」

- ・学習カードなどを使って学習したとき、ノートに、学習したことをまとめたとき、コンピュータなどの機器を使ったときの項目では、校種間での差が大きい。

<中学校>

- ・学習カードの工夫について、教師の指導と児童生徒の感じ方に大きなずれがある。

表6は、教師及び児童生徒への「わかる授業」に関する調査結果である。

表6 「わかる授業」に関する質問事項及び、回答結果

現在あなたが担当している児童生徒に学習内容がわかるように指導するために、最も重視したいと考える取組を一つ選び、回答欄に を付けてください。				
【教師】		(%)		
	項 目	小学校	中学校	高等学校
1	児童生徒の興味・関心を高める教材・教具の開発	16.4	29.2	31.1
2	基礎的・基本的な内容を定着させる学習指導	63.4	54.4	51.4
3	指導計画の見直しと工夫改善	1.6	2.6	4.6
4	個に応じた指導の充実	17.1	12.0	10.3
5	I C Tを活用した学習環境の工夫	1.5	1.8	2.6
下の表の1から5のような授業があります。1から5のそれぞれの授業の内容を読んで、「よりわかるように、よりできるように」なるために一番受けてみたいと思う授業を <u>一つだけ選んで</u> 回答らんに を付けてください。				
【児童生徒】		(%)		
	項 目	小学校	中学校	高等学校
1	興味のある教材や、学習するための用具がたくさん用意されている授業	19.9	13.8	12.3
2	基礎的なことをしっかり教えてくれる授業	10.9	27.0	30.1
3	前に学習したことを生かして、新しいことを学習できる授業	10.8	7.6	7.5
4	自分の学習の進度や、興味・関心に合わせてくれる授業	20.6	32.1	38.5
5	コンピュータなどを使って、学校以外の人たちと話し合いができたり、調べたりできる授業	37.8	19.5	11.6

【分析】

- ・教師は基礎的・基本的な内容を定着させる学習指導を一番重視している。
- ・児童生徒は、校種が進むにつれ、自分の学習進度や興味・関心に合わせた授業や、基礎的なことをしっかり教えてくれる授業を望んでいる。
- ・「わかる授業」に関して教師が一番重視したい取組と、児童生徒が一番受けてみたい授業を比べると、教師と児童生徒のそれぞれの思いに違いがある。

【考察】

「児童生徒の豊かな学びをはぐくむ授業の創造」に関する児童生徒・教師の意識、授業の実態を探るために実態調査の結果から次のようなことが明らかになった。

教師は授業へ取り組む意識をしっかりとって授業に臨んでいる。

授業への目的意識や期待感をもって授業に臨んでいる児童生徒が、校種が進むにつれて減少している。

教師は学習内容が「わかる」ようにするために、様々な取組をしているが、校種が進むにつれて取組は少なくなっている。

「わかった、できた」と感じる児童生徒は、どの教師の取組でも校種が進むにつれて減っている。

教師の「わかる授業」のために重視したい取組と、児童生徒が「よりわかるように、よりできるように」なるために受けてみたい授業には違いがある。

【実態調査の分析・考察から】

基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれを活用する思考力，判断力，表現力等の育成を目指した取組が，「児童生徒の豊かな学び」を実現させる上で重要である。教師の学習指導の工夫と，児童生徒の望む授業には隔たりがある。



教師の「何をどのように教えるか」という明確なねらいをもった学習指導の中で，児童生徒が主体的に学んでいけるようにすることが重要である。

エ 授業実践をするにあたっての手立ての方向性

児童生徒の豊かな学びをはぐくむための学習指導の方向性を次のようにとらえ，研究協力校の児童生徒の実態や，教科の特性をふまえ授業研究を実施した。

明確なストラテジー（戦略）を備えた「個に応じた指導」に係る多様な指導方法

- ・ 児童生徒の意欲を高めるための学習課題提示の仕方の工夫
- ・ 児童生徒相互に話し合い，考えを広げ深める場の設定
- ・ 児童生徒の豊かな学びを支える体験的活動 等

児童生徒が自分の思いや願いを膨らませていく教材の開発